



がんじん

## 鑑真は、なぜ日本に仏教を伝えに来たの



日本に完全に伝わってなかった、仏教の戒律<sup>かいりつ</sup>を、  
伝えに来てくれたんだよ。

## 日本の仏教の戒律は、不完全だった

仏教には、仏（釈迦<sup>しゃか</sup>）が定めた、戒律というおきてがあります。戒<sup>かい</sup>は、「悪いことをしない。良いことを行う。他の人々のためにつくす。」という内容の、仏教徒がみずから守らなければならない、おきてのことです。律<sup>りつ</sup>は、仏教徒という団体の内部の規則で、これを破るとばっせられます。鑑真が来る以前にも、日本へ戒律が伝えられていました。しかし、戒律の制度を整えるには、まだ伝わっていない部分があるため、不完全なものでした。そこで、中国から、戒律にくわしい僧<sup>そう</sup>に来てもらおう、としたわけです。

## 戒律にくわしい僧を探した

第9回遣唐使<sup>けんとうし</sup>に従って唐（中国）に行った、栄叡・普照<sup>ようえい ふしやう</sup>らは、742年に、揚州<sup>ヤンチョウ</sup>の大明寺<sup>たいめいじ</sup>で律を教えていた、鑑真をたずねました。そして、日本に行って戒律を伝えてくれる僧<sup>すい</sup>を、推せんしてくれるよう、頼みました。しかし、鑑真の弟子は、だれも行きたがらなかったため、鑑真は、自分が行くことにしました。

## 6回目の航海で、ようやく成功した

鑑真は、日本への渡航<sup>とこく</sup>に、5回も失敗し、6回目の754年に、ようやく成功しました。その間に、両方の目が不自由になりました。それでも、763年に、唐招提寺<sup>とうしょうだいじ</sup>で76歳<sup>さい</sup>で亡くなるまで、日本に戒律を伝える努力をし続けました。



6回目の航海は、第10回遣唐使の帰り船に乗ったんだよ。